

機関番号：13701
 研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2008 ～ 2010
 課題番号：20401003
 研究課題名（和文） ルーマニア・ブルガリアの農村における持続的発展の危機とその再生の可能性
 研究課題名（英文） Crisis of Rural Areas and their Prospects for Sustainable Development in Romania and Bulgaria
 研究代表者
 小林 浩二 (KOBAYASHI KOJI)
 岐阜大学・教育学部・教授
 研究者番号：30111793

研究成果の概要（和文）：ルーマニアの一集落ルカルの調査によると、ルカルでは、1990年以降、ルーラル・ツーリズムが発展し、重要な役割を担うようになっている。森林伐採は大きく進んだが、マネジメントプランの策定後、その程度は減少している。問題点として、ルカル住民の格差（生活環境）が拡大していることがあげられる。また、ルカルの住民自らの居住地に関する認識をみると、風景と自然、地域社会の連帯を高く評価しているが、森林の過伐採や採草地の荒廃に危惧を抱いている。

ブルガリアの一集落プロフェソア・イシルコヴォの調査によると、集落内に存在する農業協同組合が雇用の創設等、経済の面のみならず、生活環境の維持・発展において重要な役割を果たしている。EUや国の農村開発政策が確実に実施されてきたが、問題点として、地方自治体がまだ十分な行政能力を有していないことや財政的負担が大きいことから、十分機能していないことがあげられる。

研究成果の概要（英文）：

The research results on Rucar, a settlement in Rumania show that rural tourism has been booming since 1990 and the tourism business has been playing a significant role in the development in Rucar. Deforestation still continues, but after drafting of the "Management Plan", the degree of deforestation has been slowing down.

Disparity among residents in terms of living environment is expanding in Rucar. With regard to the residents' evaluation for their living environment, they are highly appreciating the landscape, nature and social solidarity of the settlement, but are concerned about ongoing deforestation and many abandoned pastures.

The research results on Professor Ishirkovo, a settlement in Bulgaria show that the agricultural cooperatives within the settlement are playing a vital role not only in creating jobs and promotion of economic growth but also maintenance and improvement of the residents' living environment. Both the EU and the State Governments have been implementing various settlement development measures, but because of poor administrative functions of the local governments and their heavy financial burdens, those measures have produced fewer results so far.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
2009年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
2010年度	4,000,000	1,200,000	5,200,000
年度			
年度			
総計	12,500,000	3,750,000	16,250,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：地理学・地理学

キーワード：ルーマニア、ブルガリア、ルカル、マグラ、プロフェソア・イシルコヴォ、トランスフォーメーション、レスティチューション、ルーラル・ツーリズム、

1. 研究開始当初の背景

トランスフォーメーションの光と陰

2007年1月、ルーマニアとブルガリアはEUに加盟した。これによって、1990年に始まった市場経済化を震源地とする社会の大変革（トランスフォーメーション）はさらに加速することになった。社会の隅々にトランスフォーメーションをもたらす圧力は、産業構造を変え、人々の考え方やライフスタイルを著しく変化させた。こうしたなかで、過去20年にわたって、ルーマニアもブルガリアも変革の光と陰を経験してきた。光とは、経済的豊かさである。光には陰がつきまとう。両国における陰とは、格差の急激な拡大である。農村は、この陰の部分が集約的にあらわれている空間である（Fassmann, H. Hrsg. 1997）。農業の民有化（レスティチューション）によって、かつての国営農場および農業生産協同組合は、おもに個人農に変化した。個人農のほとんどは零細農であり、農業生産も農業雇用も大きく減少した。農村では、農業に代わる雇用機会はきわめて限定されている。その結果、多くの失業者が生まれるとともに、若年層を中心に多くの人々が、職を求めて国内の大都市やギリシャ、イタリアなどの外国へ流出した。

また、農村では、道路や上下水道といった基本的なインフラの整備が遅れている。高い失業率（ところによっては80%にも達する）と深く関連する社会病理現象（アルコール依存症や家庭内暴力）も深刻である。農村は、まさに共同体の深化を目指すEUのアキレス腱である。

2. 研究の目的

本研究では、とりわけ2000年以降のルーマニアとブルガリアの農村で生じた変化の具体相をつぶさに捉え、農村が直面している深刻な問題とその解決の方向と方法を解明することにした。それを通して地域の多様性を活かした農村の発展の道筋を明らかにしたい。

3. 研究の方法

研究の枠組みとして、国レベル、地区レベル（カウンティレベル）および集落レベルにおいて、天然資源・自然環境、人口、産業、生活様式、発展政策についての調査を実施し

た。具体的な研究方法として、これらの諸点について、国レベルの調査研究に関しては、国の農業省などの省庁、統計局等での聞き取り調査ならびに資料収集を行った。また、地方レベルの調査研究では、カウンティ（県）の役所、統計局で聞き取り調査ならびに資料収集を、集落レベルの調査研究においては、いくつかの集落を選び、詳細なフィールドワーク（聞き取り調査、アンケート調査、土地利用・景観調査等）を実施した。

ルーマニアにおいては、地区レベルおよび集落レベルの調査研究をアルジェシュ Arges カウンティとルカル Rucar 集落、ならびにブラショフ Brasov カウンティのマグラ Magura 集落で行った。一方、ブルガリアにおいては、地区レベルおよび集落レベルの調査研究をシリストラ Silistra カウンティとプロフェソア・イシルコヴォ Professor Ishirkovo 集落、アイデミール Aydemir 集落で実施した。

4. 研究成果

4. 1 ルーマニア

1) ルーラルツーリズムの特色

① ルーマニアのルーラル・ツーリズムでは、農家民宿が中心的な施設である。2009年11月の時点で、全国に680軒の加盟民宿がある（ANTREC加盟する民宿のみ）。農家民宿の地域的分布を検討すると、そのほとんどはカルパチア山脈とトランスシルヴァニアに分布している。ルーマニアにおけるほとんどの農家民宿は山地農村に立地する傾向にある。

② ルカルでは、2000年頃から農家民宿を中心として宿泊施設が開設されてきた。宿泊施設あたりのベッド数の平均は15前後である。宿泊施設の立地は、ルカルの中心地区、その北側の河谷であるサティック地区およびルシオル地区の谷底で見られる。

2009年と2010年に実施した聞き取り調査の結果、経済不況による宿泊施設利用者の減少、宿泊日数の減少という深刻な問題が出現した。それゆえに、節税対策として、宿泊施設の看板を撤去する施設が多くみられるようになった。また、すでに経営を中止した宿泊施設も存在する。一方、宿泊客の特色として、安価な食材を持ち込み、それを自ら料理することによって宿泊費用を節約していることがあげられる。

ルカルにおける宿泊施設の顧客のほとんどはルーマニア人の家族やグループであり、ブカレストを中心とする都市から訪れている。常連客や彼らの紹介による宿泊が多く、夏季休暇、クリスマス、イースター等の時期に1~3泊する。彼らの行動の中心は、自然のなかで、食事（自炊または賄い）を楽しむつつ、休暇をのんびりと過ごすことである。

2) 景観・土地利用の評価

ルカルでは1989年の革命以降、市場経済の移行や林地の私有化等によって生業構造が大きく変化した。そのなかで、ツーリズムや林業関連ビジネスなどの展開がみられ、他方で人口がよく保持されている点にその持続的発展の可能性を認めることができた。地域住民における景観・土地利用評価は、つぎのとおりであった。(1)各個人の立場を超えて、ルカルの風景と自然、地域社会の靱帯を高く評価している。(2)森林は過伐採による森林資源の枯渇と伐採跡地への植林がなされていないことから村長・副村長以外の全員がマイナスに評価している。(3)農業は一部で採草が荒れてきたと実感している者がみられるが、羊毛価格の低迷下のなかでよく保全されていると考える者もいて、森林に比べてプラスに評価されている。(4)立場を超えて、ルカルにおいてツーリズムが地域の発展の鍵であると認識している。

3) マグラ集落の生業と生活

1989年以前は計画経済の誘導による労働力の供給源として地域の農民たちが利用され、マグラの住民も生業の柱としての工場や町で勤務していた。そのため、公共路線バスの運行による通勤体制が国によって整備されていた。また、余暇の時間を利用した副業としての農地利用が活発に行われ、多種の家畜も飼育されていた。さらに、行政による毎日の牛乳回収や、チーズの買い取りシステムが稼働していた。住民たちの生活は安定していた。

体制転換後、多くの工場が閉鎖され、しかも雇用数は大幅に削減されている。従って、主な生業は農牧業に依存するようになっていく。1989年以前には、毎日ザルネシチからウシのミルクを買い付けに来ていたが、現在ではそれが途絶え貴重な現金収入がなくなった。

4) 森林の利用と保全

1991年、国立森林管理機関(National Forest Administration)(NFA)ーロムシルヴァ Romsilva が新たに設立された。ロムシルヴァの主な機能は、つぎのとおりである。

(1) 林業分野における国家戦略の策定、(2)

国有林の規範、保全及び持続的な発展の実現を確実なものにすること、(3) 国有林地の管理、(4) 私有林地、植林された放牧地や防風林の管理(契約されたものについて)、(5) 木材及び非木材生産物の健全な利用(法律によって割り当てられた狩猟、漁業の管理を含む)、(6) 林業に対する公共サービスの提供、(7) 国立馬繁殖局としての役割(ルーマニアの純血種の保護)。

ルーマニアにおける森林の伐採面積、木材生産量をみると、両者ともほぼ1990年半ばまで減少するが、それ以降増加している。森林の保全に大きな役割を果たしているのが、森林の管理計画 Management Plan である。木材伐採者は森林の管理計画を作成し、それを森林管理事務所(Ocol Silvic)に提出・許可を得なければならない。

ルカルの面積は2.83万ha、うち1.95万haが森林(68.9%)である。森林の内訳をみると、国有林4,100ha、私有林8,900ha、共有林(Obste)、村有林、教会林等の法人所有の森林が6,500haとなっている。地区東部の森林は、国立公園になっている。ルカルでは、1991年以降の3度にわたるレスティチューションによって、上記のように私有林が増加した。

ルカルでは、1990年の体制転換直後から木材の需要が急増し、1990年代終わりまで続いた。ルカル住民の多くは、自らの森林(木材)を売却した。これは、体制転換後の木材需要の増大に加えて、森林管理の法的整備が十分なされていなかったことによる。ルカル住民が、レスティチューションによって得た森林(木材)を売り急いだことも一因である。しかしながら、1990年代終わり以降、経済不況により木材需要が減少し、森林(木材)の売却は安定してきた。

4. 2ブルガリア

1) ブルガリアの経済格差とその背景

GDP額とその変化率(1999~2008年)を計画地域(Planning Region)別にみると、北西部と北中央部が経済的に低迷する半面、もともとブルガリア経済の中心であった首都ソフィアを含む南西部のGDPが増加しており、南西部とその他の地域との差が徐々に拡大している。また、賃金を県(DistrictあるいはCounty)別にみると、南西部に位置する首都ソフィアの賃金水準がきわめて高く、もともと高水準の賃金が、近年さらに上昇している。このように、首都ソフィアおよびその周辺とその他の地域との間には、2000年代に入って、地域的格差はさらに拡大している。と

くに、北西部と北中央部の賃金は低水準にとどまり、経済開発は進んでいない。

地域的な経済格差は、首都ソフィアとその周辺での事業所立地に起因する就業機会の多さが雇用の場の少ない農山村からの人口の吸引を伴って起こっている。一方、賃金水準の低い農山村地域では、大規模事業所の立地が少なく、海外の直接投資も不十分であり、失業率は高い状態となっている。人口流出や人口減少も顕著である。経済発展が立ち遅れている。

2) EU とブルガリアの農村開発政策

① EU の農村開発政策

EU は、東方拡大に対応した行動計画『アジェンダ 2000』に基づき、共通農業政策(CAP)の改革を実施し、農村開発を CAP の第 2 の柱とした。従来は地域政策(構造政策)の対象であった農村開発政策が、CAP の第 1 の柱である価格政策と並ぶことになったのである。これを受けて、前期までは地域政策の枠組みの中で実施されていた、欧州農業指導保証基金(EAGGF)の保証部門による農村開発に関する諸政策が、地域政策から CAP へと引き継がれることとなった。同時に、地域政策で開発されてきた政策手法も、CAP の農村開発政策に引き継がれている。それは、政策プロセスにおいて、補完性原則に依拠した分権的手法の重視や、パートナーシップ原則に基づき多様な地域的主体を包括したローカルなガバナンスの構築などである。

② ブルガリアにおける農村開発

ブルガリアでは、CAP の農村開発政策をふまえて「国家農村開発計画」を策定し、農村開発政策を実施している。

農村開発計画は、以下の 4 つの柱から構成されている。①農業・林業・食品加工産業を基盤とした競争力とイノベーションの開発、②自然資源と環境の保護、③農村地域の生活の質の向上、雇用機会の多様性の向上、④ローカルキャパシティとローカルガバナンスの向上。これら 4 つの柱に沿って、個別の施策が実施される。

③ 政策現場での実態

こうした施策を申請する際には、詳細な申請書やビジネスプランを提出しなくてはならない。しかし、旧体制下では中央集権型行政システムであったため、自治体はまだまだ十分な行政能力を有しておらず、多くの場合は民間のコンサルティング会社を活用しており、小規模自治体にとってはその費用の負担が大きい。同様に、小規模な農業経営体にとっても、申請自体が非常にハードルの高いものとなっている。

④ 協同組合の実態

EU の施策を活用できない地域や農業経営体は、上記の状況にいかに対応しているのか。この問いに対する 1 つの答えとして、本研究は、協同組合が農村開発において公共的な役割を担い、機能していることを明らかにした。

ブルガリア北東部に位置するプロフェッサー・イシルコヴォ Professor Ishirkovo は、トウモロコシ、ヒマワリ、アプリコット、プラムなどを生産する小規模農村である。しかし、同村は統計上の分類では都市地域とされるシリストラ Silistra 市の一部であるため、農村地域としては扱われない。そのため、農村開発分野の多くの諸施策は適用外となる。こうした状況に対して、同村では、かつて社会主義時代に存在し、民主化後に解体・再建された農業協同組合が、農業経営のみならず村の社会的・公共的な機能を担うことにより対応している。例えば、道路の修理等のインフラ整備、幼稚園の建設・運営、職業訓練、地域コミュニティ金融の提供などが協同組合によって実施されている。

3) ブルガリアにおける農村の生活環境

① ブルガリアにおける農村の特色

ブルガリアの農村を具体的にみると、ネガティブな面として、人口構造が好ましくない、地方行政体に EU の基金を管理・運営する能力がない、基本的なインフラ(水供給、下水処理、道路ネットワーク、廃棄物処理等)が整備されていない等があげられる。一方、ポジティブな面として、豊富で多様で自然が存在する、電力供給、コミュニケーション、生活インフラが比較的良好であり、集落のネットワークがよい、歴史的、文化的伝統に裏打ちされた農村コミュニティが数多く存在する等が指摘できる。

② プロフェッサー・イシルコヴォの生活環境

アンケート調査を実施したプロフェッサー・イシルコヴォ Professor Ishirkovo は、シリストラカウンティの中央北部に位置し、人口 1,202 人(2008 年)である。地域住民の生活環境(雇用場所・雇用機会、商業・サービス施設、医療・保健・高齢福祉サービス、教育など 12 項目)の満足度をみると、ほとんどの項目でポジティブな評価となっている。これは、とりわけ、農業経営体(農業協同組合)と村の行政によるところが大きい。プロフェッサー・イシルコヴォでは、農業協同組合である NIVA93 が雇用といった経済面だけでなく、経営によって得た利益を集落内の幼稚園、チャタリステ(コミュニティセンター)、インフラ等の整備に投資している。また、農

業実習生の受け入れ、個人農への援助（資金や農用機械の貸与）も行っている。加えて、村の評議会が中心となってインフラなどの整備・発展策を立案・実施するとともに、村民のためにさまざまな催し物を開催している。このように、農業協同組合がプロフェンア・イシルコヴォの発展に果たしている役割はきわめて大きい。

4. 3 今後の課題・展望

本調査研究で明らかにしたルーマニアのルカルならびにマグラの集落、ブルガリアのプロフェンア・イシルコヴォの全体像を明確にするとともに、それらの集落がルーマニア、ブルガリアのなかでどのように位置づけられるのかを明らかにしたい。また、私たちの重要なテーマである農村の多様性の実態についてさらなる解明を試みたい。さらに、EUならびに国の地域発展政策や農村発展政策をより機能化するにはどうすべきか、農村の実態に即した発展のあり方はどうあるべきかについて提言したい。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計8件）

- 1) 小林浩二 2012. 東ヨーロッパにおける農村の変化. 地理の研究 186, 51~59 (無).
- 2) 小林浩二 2011. ブルガリアにおける農村の変化と課題. 岐阜大学留学生センター紀要 2010, 1~18 (有).
- 3) 呉羽正昭 2011. 最近のヨーロッパにおける観光と地域変容. 地理月報 520, 3~5 (無).
- 4) 伊藤貴啓 2011. ルーマニア、カルパチア山村における地域住民の景観評価と山村の持続的発展—アルジェン郡ルカルを事例に—. 愛知教育大学・地理学報告 113, 1~13 (有).
- 5) 伊藤徹哉 2011. ブルガリアでの EU 統合下における地域的経済格差の背景. 地域環境研究 13, 11-23 (有).
- 6) 小林浩二 2010. ルーマニアにおける森林の利用と保全. 岐阜大学教育学部研究報告 人文科学 第 58 巻第 2 号, 19~29 (無).
- 7) 呉羽正昭・伊藤貴啓 2010. ルーマニアにおける農村ツーリズム. 農業と経済 76 (9), 131-137 (無).
- 8) 小林浩二 2008. ブルガリアの首都ソフィアの発展と地域的特色. 岐阜大学教育学部研究報告人文科学 第 57 巻 No. 1, 27~40

(無).

〔学会発表〕（計9件）

- 1) KOBAYASHI, Koji 2011. Changes and Characteristics of Rural Areas in Bulgaria. In Geographical Society of Slovakia, Majmirovce (Slovakia) (June 7th).
- 2) 小林浩二ほか 2011. ブルガリアにおける農村の生活環境. 日本地理学会春季学術大会(3月29日 明治大学).
- 3) 伊藤徹哉ほか 2011. ブルガリアでの EU 統合下における地域的経済格差の背景. 日本地理学会春季学術大会(3月29日 明治大学).
- 4) 飯嶋曜子ほか 2011. ブルガリアにおける EU 農村開発政策の展開. 日本地理学会春季学術大会(3月29日 明治大学).
- 5) 呉羽正昭ほか 2011. カルパチア山村ルカルにおける宿泊施設の特徴. 日本地理学会春季学術大会(3月29日 明治大学).
- 6) 伊藤貴啓ほか 2011. カルパチア山村ルカルにおける中小企業の叢生と農村の持続的発展. 日本地理学会春季学術大会(3月29日 明治大学).
- 7) SASAKI, Lidia (研究協力者) 2011. Changing Patterns of diversification and pluractivity in Rucar the Romanian Cartathians. 日本地理学会春季学術大会(3月29日 明治大学).
- 8) 中台由香里(研究協力者)ほか 2011. カルパチア山地集落マグラにおける農村の自立への道. 日本地理学会春季学術大会(3月29日 明治大学).
- 9) DIRLOMAN, Gabriela (研究協力者) 2011. Piatra Craiului National Park, a model of sustainable tourism in Romania. 日本地理学会春季学術大会(3月29日 明治大学).

〔図書〕（計11件）

- 1) 小林浩二 2012. 『地域研究とは何か—フィールドワークからの発想—』138 ページ、古今書院.
- 2) 小林浩二 ブルガリアにおける農村の持続的発展. 小林浩二ほか編著『EU 拡大とニューリージョン』(印刷中、2012年9月出版予定).
- 3) 小林浩二 ルーマニアにおける森林の利用と保全. 小林浩二ほか編著『EU 拡大とニューリージョン』(印刷中、2012年9月出版予定).
- 4) 呉羽正昭 東ヨーロッパにおけるルーラ

ルツーリズムの展開. 小林浩二ほか編著『EU 拡大とニューリージョン』(印刷中、2012年9月出版予定).

- 5) 伊藤貴啓 ルーマニア、カルパチア山村における景観の評価と山村の持続的発展. 小林浩二ほか編著『EU 拡大とニューリージョン』(印刷中、2012年9月出版予定).
- 6) 伊藤徹哉 ブルガリアでの EU 統合過における地域的経済格差の拡大と背景. 小林浩二ほか編著『EU 拡大とニューリージョン』(印刷中、2012年9月出版予定).
- 7) 飯嶋曜子 EU の地域政策とニューリージョン. 小林浩二ほか編著『EU 拡大とニューリージョン』(印刷中、2012年9月出版予定).
- 8) 小林浩二 2011. 東ヨーロッパの農村の変化と特色. 加賀美雅弘編『EU』、93-104、朝倉書店.
- 9) 呉羽正昭 2011. 観光地域と観光客流動. 加賀美雅弘編『EU』、53-61、朝倉書店.
- 10) 伊藤徹哉 2011. 都市の形成と再生. 加賀美雅弘編『EU』、40-50、朝倉書店.
- 11) 飯嶋曜子 2011. 統合するヨーロッパと国境地域. 加賀美雅弘編『EU』、119-131、朝倉書店.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小林 浩二 (KOBAYASHI KOJI)
岐阜大学・教育学部・教授
研究者番号: 30111793

(2) 研究分担者

伊藤 貴啓 (ITO TAKAHIRO)
愛知教育大学・教育学部・教授
研究者番号: 10223158

呉羽 正昭 (KUREHA MASAOKI)
筑波大学・生命環境科学研究科・教授
研究者番号: 50263918

伊藤 徹哉 (ITO TETSUYA)
立正大学・地球環境科学部・准教授
研究者番号: 20408991

飯嶋 曜子 (IIJIMA YOKO)
獨協大学・外国語学部・講師
研究者番号: 20453433

小原 規宏 (OBARA NORIHIRO)
茨城大学・人文学部・講師
研究者番号: 40447214

(3) 連携研究者

(4) 研究協力者

中台 由香里 (NAKADAI YUKARI)
東京女子大 (非)

佐々木 リディア (SASAKI LIDIA)
東京都多摩市国際交流センター

DIRLOMAN, GABRIELA
Nicolae Kretzulescu Commercial High
School (Romania)